図画工作教育講座　《　失敗　》

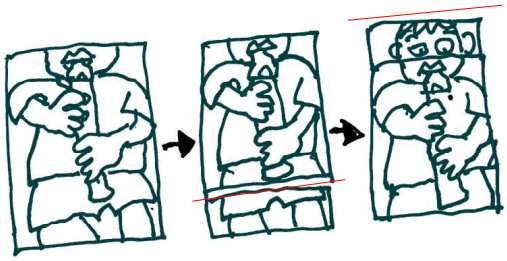
子どもは、失敗したと思ったとたんに意欲をなくす。
その失敗は回復できることを知らせて、失敗を乗り越える気力を育てることが必要。
「失敗したらそれで終わり、振り出しに戻る」ではなく、失敗したその段階からスタートする力を育てる。

＊言葉で励ます
　ちょっとした線のひき間違いには、「色を塗ったら見えなくなるよ」色のはみ出しを気にしている子どもには「そのくらいは大丈夫だよ」と、声をかけてやる。先生のお墨付きで子どもは安心して描き続けることができる。小さな失敗は、ほとんどの場合これで解決する。

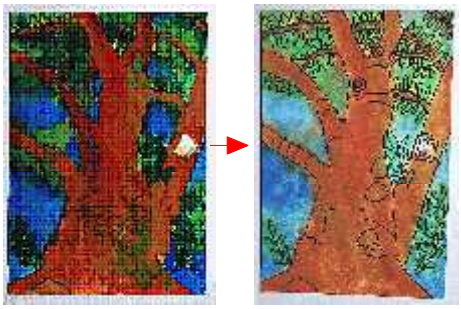
＊白を塗る
　サインペンなど消せないときは、白で塗りつぶす。白絵の具では浮き出てくるので、水性ペイント（乾くと水に溶けない）の白が望ましい。

＊切り取る
　下に同じ画用紙を重ねて、失敗部分をカッターナイフで切り取る。重ねて切り取った新しい部分をガムテープで裏打ちする。

　構図の失敗は、
　画用紙を切り取って継ぎ足す。→

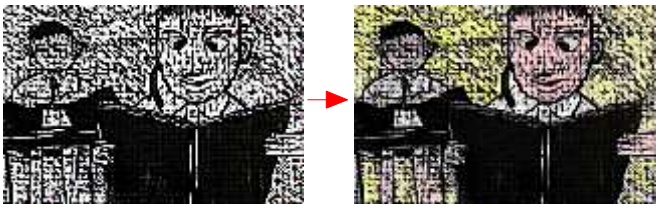


＊水で洗う
　絵の具のべた塗りや色の濁りすぎで子ども自身が悩んでいたら、水道の水を流しながら筆で軽く撫でて（こすらない）洗い流す方法を。画面全体が淡い色調になってべた塗りのときとは全く違う雰囲気になる。画用紙が乾いたら彩色を再開できる。



＊色を塗る
　木版画で彫りすぎて、白い部分が多くなりすぎ、子どもが悩んでいたら、絵の具で彩色して「多色版画」に。

フォローは、なんとかならないかと子どもが悩んでいるときの手助け。悩んでいなければ、余計なお世話になってしまいます。



＊　子どもが失敗したときのフォローが大切と思います。
　小学生のとき、絵が苦手で、失敗しては消し、重ね塗り、汚くなって、とても嫌だった記憶があります。切り取って新しい紙を付け足すとか水で洗い流すというのは、今まで考えてもみなかったフォローです。失敗＝悪いことと思っていたので、フォローすることで、むしろよい作品にできることに、なるほどと思いま

した。絵が描ける子も苦手な子も取り組みやすくなるので、「フォロー」が重要だと思いました。
　それから、スライドでみんなの作品を見せる際、技術・表現だけでなく、考え・アイデアのよいものも見せることで、苦手と思っている子の手助けとなると思うので、教師になったときには活用したいと思いました。

＊　私は小学校の頃、絵の具が乾いておらず、にじんでいって、一部分だけグチャグチャになった絵を描いたことがある。その部分以外は上手にできていたため、とても悲しかった。しかし、切り取りの方法を用いると全てを描き直すわけではないから、短時間に修正をすることができる。私は教師になったとき、この方法を教えたい。
　この講座では、今まで経験してきたことが取り上げられていたため、子どもの頃の自分と教師の自分、どちらの目線からも見ることができたため、とてもためになる有意義な授業だった。

＊　この講座で，私が重要だと思ったことは、失敗したときのフォローの仕方です。
　小学生だった頃、紙に何かを描いているときに失敗しても解決方法が分からず、そのまま無理矢理描き続けていました。一度失敗したら「もう、いいや」という気持ちになってしまって，その後の作品づくりは適当なものになってしまっていました。
　この講座で、解決方法を学びました。裏から紙を貼ったり，水で洗ったり、もっと幼いときにこの方法を知っていたら、もう少し図工を楽しめただろうなあと思います。もし、自分が教師になったら、困っている子どもに、さりげなくフォローしたいです。

＊　私がこの講座で学んだことで最も重要だと思うことは、失敗してもよいということを生徒に分からせることです。
　絵手紙の授業で、最初から３枚配ることで安心感を持つことができます。また、クロッキーでは時間を無駄にしないために「消さない」という約束があります。失敗したと思ってもそれを残すことで、後でふり返ったときに「ここで引きすぎたんだ」と気付くことができます。
　失敗してもいいんだと分からせることで、子どもたちは失敗を恐れず自分の表現したいものを自由に表現できるのではないかと思います。

＊　子どもが絵の制作に失敗して落ち込んだりしているときの教師の対応が最も重要であると考える。自分も小学生の頃、失敗を恐れるあまり慎重にしすぎて、結果的に自信が持てるような作品にはならなかった。（中略）
　教師の声かけや切り取りなどの対処法で、失敗してもまた描き足せばいいから大丈夫と、ある種の勇気を持てることを知った。教師の励ましの言葉や行動でこんなに子どもの気持ちが変化すると知った今は、責任を持って子どもと真剣に向き合わなければならないなと考える。

＊　絵を描くとき、失敗してもよいように画用紙を何枚も用意することが最も重要であると考える。
　小学生の頃「失敗してはいけない」という思いが強くあり、真っ白な画用紙に線を描く勇気が出ず、最初の一線はとても緊張していた記憶がある。間違えてしまったときは、その間違った線が気になりモチベーションを低下させ、その後の描写表現にも悪影響を及ぼしていた。
　絵には描く人の気持ちや状態が表れると思う。緊張でカチンコチンの状態や納得できない状態で描くと、のびのびした表現はできないだろう。子どもたちには、図工を緊張の場と認識してほしくない。ありのままに思いっきり、迷いなく表現できるよう、画用紙を複数枚準備することが大切だと感じた。